

七尾商工会議所『景況・業況動向調査結果報告』 (令和7年第1四半期：4月～6月)

当所では、市内136事業所から回答を得て景況調査を実施しました。概要は次のとおりです。



とにかく好調 (+50以上) 好 調 (+5～+50) まあまあ (-5～+5) 不 振 (-50～-5) きわめて不振 (-50以下)

【今期】

DI	景況感	売上高	売上単価	仕入原価	資金繰り	採算性
全 産 業	25.4	32.1	46.1	-36.6	24.8	26.0
製 造 業	21.2	42.3	48.1	-30.8	30.8	13.5
建 設 業	48.3	39.7	51.7	-60.3	24.1	36.2
小 売 業	6.0	4.0	30.0	-41.7	20.8	35.4
卸 売 業	45.5	58.3	62.5	-37.5	41.7	50.0
サービス業	17.9	29.5	45.9	-18.1	18.4	13.2

【来期】

DI	景況感	売上高	売上単価	仕入原価	資金繰り	採算性
全 産 業	22.1	14.5	39.1	-33.6	23.6	21.2
製 造 業	15.4	17.3	32.7	-36.5	38.5	21.2
建 設 業	35.7	35.7	53.6	-42.9	26.8	37.5
小 売 業	25.0	5.8	30.8	-50.0	28.0	20.0
卸 売 業	29.2	-8.3	58.3	-33.3	16.7	20.8
サービス業	12.8	10.3	32.4	-12.5	10.5	10.3

DI (ディフュージョン・インデックスとは『増加・上昇・好転』の割合 (%) から『減少・低下・悪化』の割合 (%) を差し引いた指数です。

実 施 期 間：令和7年7月10日～7月28日

有効回答数：136件（オンライン63件、書面73件）

回 答 形 式：選択回答（複数回答可）および自由回答

◆景況感の動向

全体の景況感は前期よりやや悪化。売上・採算性は厳しい状況が続いています。震災復旧需要が一部を支える一方、資材や経費の高騰、観光・人口減少が重荷となっています。

◆業種別の特徴

建 設 業：資材価格の高止まりに苦しむが、価格転嫁により採算を確保。

製 造 業：売上回復の兆しはあるが、コスト増で利益は低水準。

小売・サービス業：需要減と価格転嫁の難しさで厳しい状況。

卸 売 業：今期は好調だが、来期は急速な落ち込みが懸念される。

◆経営課題

仕入・経費の上昇、人手不足、需要低迷と価格転嫁の難しさ、事業承継への不安など

◆今後のポイント

復旧から再建・転換への移行期にあり、資金・人材・経営ノウハウの支援が不可欠です。商工会議所は伴走型支援や後継者育成、情報発信を通じて、七尾の復興を牽引してまいります。

なお、今回の調査では、多くの事業者の皆さまから「現状の厳しさ」と同時に「地域と共に前へ進みたい」という声も寄せられました。能登半島地震からの復旧は道半ばですが、着実に再建へと歩みが進んでいます。当所では、皆さまの声に耳を傾け、経営支援や情報提供を通じて、これからも地域の挑戦を力強く後押ししてまいります。引き続き、調査や事業活動へのご協力をお願い申し上げます。



◀景況・業況動向調査
結果報告レポート